

論文式試験の得点格差の調整について

論文式試験は、各答案用紙を複数の試験委員により採点しています。
その際、試験委員間及び試験科目間の採点格差の調整を、下記のとおり行っています。

<論文式試験の得点の算定方法>

各受験者の得点は、当該受験者の素点（点数）がその採点を行った試験委員の採点結果の平均点から、どの程度離れた位置にあるかを示す数値（偏差値）により算定しています。なお、素点が0点の場合は、調整後の得点も0点としています。

【例】 A委員が採点したB受験者の答案（第X問）を次のような計算により採点格差の調整を行います。

$$\text{得点} = \frac{(\text{A委員が採点したBの素点} - \text{A委員が採点した答案全体の平均点})}{\text{A委員が採点した答案全体の標準偏差}(\ast)} \times \frac{\text{第X問の満点}}{10} + \frac{\text{第X問の満点}}{2}$$

※ A委員が採点した答案全体の標準偏差

$$\text{標準偏差} = \sqrt{\frac{(\text{A委員が採点した各個人の素点} - \text{A委員が採点した答案全体の平均点})^2 \text{の総和}}{\text{A委員が採点した受験者数} - 1}}$$